



## 奈良で創業53年の縫製メーカー、子ども用国産ライフジャケットを今秋、発売。 6/5~6/7 2019 防災産業展 in 東京に初出展し、お披露目。

～ 専門家や子育て支援の NPO と連携し、子どもだけで着脱しやすい製品を開発 ～

厚物素材の縫製加工技術を活かして通学カバン、鉄道・自動車用品などを生産する株式会社ダイワホーサン（本社：奈良県宇陀市、代表取締役：辻本小百合）は、消防レスキュー隊用のライフジャケット生産で培った技術を活かし、国内製造した学校用・レジャー用のライフジャケットを開発、6月5日（水）～7日（金）、東京ビッグサイト青海展示棟で開催される2019防災産業展 in 東京に初出展します。厳しい基準（浮力試験ならびに温度繰り返し試験）をクリアした安心の製品を、全国へ届けます。

### レスキュー隊ライフジャケット生産の技術を活かし 子ども用国産ライフジャケットを開発

一般に販売されているライフジャケットの安全を測る数値基準は、浮力のみ。既存のライフジャケットの中には傷がつくと空気が抜けてしまう膨張式タイプや水が浸透して時間が経つと浮力が落ちるものもあります。またライフジャケットの多くは海外生産で、中には粗悪品も含まれています。

当社では長年の縫製技術を活かして、全国でも稀に見る国産ライフジャケットを開発。子どもたちの安全を守るために、浮力以外の自主的な安全基準をクリアした製品を開発しました。

当社はレスキュー隊用ライフジャケットの製造実績があり、厚物素材の縫製加工技術は公共交通機関や官公庁から高く評価されています。



災害時、子どもたちが自分で着ることができるよう改良を進めている。

### 長期間の自宅保管も可能

### 専門家や子育て支援の NPO と連携し子どもの命を守る

当社のライフジャケットは、レスキュー隊と同じ生地・浮力材・ベルト・反射板・金具を使用。レスキュー隊用と同様の品質を確保しました。

浮力検査に加えて、温度繰り返し試験を実施。温度繰り返し検査では、長期間自宅や学校で保管しても品質に変化がないことがわかりました。浮力試験では、安全基準の7.5kgを大きく上回る浮力を測定。使用開始から24時間後の浮力が全く変わらなかったことから、救助までに時間がかかっても安全性は保たれます。

また、子どもの安全の専門家（大阪大学大学院 特任研究員 岡真由美氏）や子育て支援の NPO「ファザリングジャパン」と連携し、大人の手が回らない災害時にも、子どもが一人で着脱しやすいシンプルな構造にし、今夏を目処に改良を進めています。今秋、子ども用ライフジャケットを販売し、奈良県はもちろん、全国に普及したいと考えています。



学校施設・サービス展 2018 に出展した様子。学校現場で防災関連製品のニーズは高まっている。